

令和3年度 施政方針

(はじめに)

はじめに、新型コロナウイルス感染症に、日夜、最前線に対応しておられる医療関係者の皆様および細心の注意を払って事業を行っていただいている介護関係者の皆様に、心からの敬意を表します。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止にご理解とご協力をいただいております事業者、市民の皆様にもお礼申し上げます。

現在、新型コロナウイルスワクチンについて、市民の皆様への円滑な接種を目指し、準備を進めております。コロナウイルスが一刻も早く終息し、医療関係者、事業者そして全ての皆様が安心して笑顔で暮らせる日々が戻ってくることを、心よりお祈り申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって未曾有の停滞にさらされた社会経済は、中小企業、特に飲食業などのサービス業を中心に厳しい状況が続き、感染拡大防止のために経済活動の人為的な抑制を余儀なくされるなど、日々の住民生活にも大きな影響を与え続けております。

高浜市においても、様々な事業を延期・中止せざるを得ず、また市民の皆様に対しましても日常生活のなかでのご理解・ご協力を求めてまいりました。そうしたなか、この過酷な状況を皆で乗り越えようと皆様が知恵を出し合う姿を見、個人や地元企業から篤志が寄せられるという温かさにも触れ、勇気をいただくとともに、心強く感じております。

そうした中にもかかわらず、昨年中は明るい話題も多々ありました。「たかはま夢・未来塾」が「第8回プラチナ大賞」で「地域人財育成賞」を、「高浜高校SBP」は「第5回全国高校生SBP交流フェア」で最高位となる「文部科学大臣賞」を受賞されました。また、当市のボランティア活動の草分け的存在ともいえる「渡し場かもめ会」におかれては、長年の貢献が緑綬褒章を受章され、市制施行50年に花を添えていただく、そんな、これまでの取り組みが評価された年でもございました。

くわえて、高浜市を未来に導く「アシタのチカラ」の象徴である子どもたちに対し、コロナ禍など日々の活動が制約されるような状況下でも学びを止めることの無いように、県内でもいち早く全児童・生徒に対する1人1台のタブレット配備および全教室への電子黒板の導入を実現させるなど、「GIGAスクール構想」の推進に着手することができました。

この「アシタのチカラ」という言葉。平成21年9月の就任以来、私の市政運営の根幹にある言葉であります。市民の皆様と手を携えたまちづくりを「タカハマの根っこづくり」から始め、幹を育て、花を咲かせ、種を取り、また新たな木々を育てていく、常に未来を見据え、市民にとって真に必要な施策は何かを考えながら、高浜市のアシタにつながる行政運営にこれまで心がけてまいりました。

くしくも私が市長に就任した平成21年は、新型インフルエンザの国内感染が初めて確認された年であり、リーマンショックの影響による税収減を最も受けた年でもございました。まさに今直面している状況と類似しており、そんな局面を乗り越え、舵取りをはじめた就任当初でありました。その後も様々な課題に立ち向かいながらアシタを見据え取り組んでまいりました。

全国の自治体が直面している公共施設の老朽化問題には、業務のICT化を見通してコンパクトな市庁舎をリースとすることで支出を平準化、老朽化した公共施設は複合化し機能移転により、必要なサービス（機能）は維持しながら、将来支出に備えるという考え方で、課題を先延ばしにせず対峙するという姿勢で進めてまいりました。小学校を地域コミュニティの核とするモデル事業として進めてまいりました高浜小学校の複合化も結実し、校舎に続いて本年1月には複合施設の第2期工事も終了し、メインアリーナ、サブアリーナの使用も開始となりました。複合化した高浜小学校施設の全容をもって、皆様に高浜市の目指す公共施設のあり方的一端をご理解いただけるようになったのではないかと思います。

高浜市市制50周年という節目を超え、新たな船出の年、たいへん波は高く、難しい航海の始まりとなりますが、これまでをこれからにつないでいくため、令和3年度の予算編成では、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化を見据え、コロナ禍における限られた経営資源をより一層効果的・効率的に活用するとともに、感染症収束後の「新たな日常」などの社会変容に対応していくよう、『新たな日常へのチャレンジ予算』とし、「新型コロナウイルス感染症の影響への対応」、「感染症収束後を見据えた徹底した見直しと経常的経費の削減」、「重点取組事業への財源配分」という3つの基本的な考え方を掲げ編成いたしました。

「重点取組事項」につきましては、「新たな日常」を見据え、「新型コロナウイルス感染症の影響に対する事業」、「ICTを活用した行政サービスの推進につながる事業」、「公共施設総合管理計画の推進につながる事業」、「安心な子育て環境につながる事業」の4事業としております。

（令和3年度の主要施策）

それでは、これより令和3年度の主要施策について、第6次高浜市総合計画の基本目標に沿って述べさせていただきます。

はじめに、基本目標Ⅰ「みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう」で
ございます。

ソーシャルディスタンス、3密の回避など、新型コロナウイルス感染症は、これまで本市が培い、築き上げてきた協働のまちづくり、膝と膝を交え、集い語り合う、手と手を取り合いながらともに汗をかく、そうした「人と人とのつながり」を根幹にしたまちづくりを揺るがすものでありました。しかしながらこの機を「新たなつながり方」を考えていくチャンスととらえ、人口構造や就労形態、情報技術の進歩、温室効果ガスの削減など社会構造が変容していく中、情報発信や行政サービスの仕組み、そして協働のまちづくりのあり方も再構築し、今一度、市民、地域、行政が、想いを共有し、力を出し合い、互いに連携・協働しながら、この難局を乗り越え、成長していかなければなりません。

第7次高浜市総合計画の策定は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け策定期間を1年延長することとなりましたが、さらなる10年後の高浜市の目指すまちづくりの設計図として、小学校区ごとの地域の将来像を描く地域計画と連動しながら、まちづく

り協議会をはじめ、多くの団体や市民の皆様とともに策定してまいります。

さらに、総人口に占める割合が愛知県内市町村トップレベルにまで増加した外国籍住民の方に関しては、地域を共につくる仲間としてお互い理解を深めることができるよう、地域日本語教育をはじめとした多文化共生事業に引き続き取り組んでまいります。

また、一部延期となっております市制施行50周年記念事業につきましても新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら実施してまいります。

行財政運営では、新型コロナウイルス感染症の影響による歳入減を見込む中でも、行政サービスを低下させることなく、「新たな日常」などの社会変容を見据えた取り組みを進めていくことが必要であります。

新型コロナウイルス感染症を機に大きくそのあり方が見直された働き方のカタチは、この感染症終息後も戻ることはないと考え、在宅勤務を推進するためのテレワークの環境を整備するほか、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）技術を、定型業務である財務に関する業務に本格導入していくなど、行政サービスの効率化、働き方の見直しを進めてまいります。

また、本年1月より高浜小学校等整備事業において、メインアリーナ、サブアリーナ、児童センターなどの供用が開始され、駐車場整備などの第3期工事もいよいよ完了し、4月より高浜小学校が地域コミュニティの拠点として完全稼働してまいります。

限られた財源の中でも、将来を担う子どもたちの学びの環境をしっかりと維持管理していくために、高取小学校、吉浜小学校にくわえて、港小学校の長寿命化改良事業に向けた実施設計に取り組むなど、公共施設総合管理計画の着実な推進に取り組んでまいります。

次に、基本目標Ⅱ「学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう」でございます。

市制施行50年を迎え、一部事業は本年に延期をいたしました。記念事業を企画・実践していく中で、今、高浜市がこうして存在し、人々の暮らしがあるのは、長い年月をかけ、先人たちが培ってきた多くのあゆみのおかげであることを実感いたしました。そのあゆみをとめることなく、学び、育み、そしてこの先、この地に暮らす方々につないでいくため、夏頃にいよいよ発行を迎える高浜市誌を活用し、市民同士が学び合う「市誌を読む会」の開催など、先人たちのあゆみ、高浜市の足跡や魅力・自慢を多くの方に発信し、共有してまいります。

学校教育では、Society5.0時代を生きる子どもたちへ創造性を育む学びを実現し、かつ「新たな日常」の中でも子どもたちへの教育に影響が出ることのないよう、GIGAスクール構想に基づくICT教育を推進するとともに、高浜中学校のプール改修工事や中学校のトイレの洋式化を計画的に進めるなど、ソフト・ハードの両面から教育環境を整えてまいります。くわえて、保護者のスマートフォンやタブレット、パソコンなどとオンラインでつながり、連絡ができる「学校、家庭、地域をつなぐ連絡システム」を整備し、保護者との双方向連絡の利便性の向上とあわせて、教員の働き方改革を進めてまいります。

また、子育て・子育て支援では、待機児童ゼロを目指し、安心して子育てできる社会につなげていくため、家庭的保育事業「からんこえ」を小規模保育事業に切り替え、3

歳未満児の定員を拡充してまいります。

次に、基本目標Ⅲ「明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう」でございます。

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける地域経済を活性化し、「新たな日常」の生活を支えていくためには、社会生活基盤の安定・維持に努めていくことが重要であります。

企業誘致事業として進めてまいりました豊田町の工業用地においては、早期の操業開始を支援してまいりました企業2社ともが、いよいよ本年中に本格的に稼働をされてまいります。将来への財源確保につながる企業誘致については、引き続き小池町地区の早期造成に向け、関係者や関係機関と協議・調整を進めてまいります。

都市計画・基盤整備では、ゆとりと豊かさを実感し、個性的で快適な都市づくりを進めるための都市計画の指針となる都市計画マスタープランを策定するとともに、八幡町・新田町の雨水排水対策の検討を進めてまいります。

また、衣浦大橋の渋滞対策事業である西向き左折専用橋梁の整備では、架設工事が開始される見込みとお聞きしておりますので、引き続き実施主体である愛知県に着実な工事の進捗を要請してまいります。

防災・防犯では、コロナ禍においても災害はいつ起こるかわかりません。コロナ禍での避難所運営等に必要な感染症対策用物資を計画的に整備するとともに福祉避難所向けの資機材も整備をしております。くわえて、地域の皆様とともに、コロナ時代の避難所運営について、主体的に学び準備する取り組みも引き続き実施をしております。

また、交通安全では、愛知県が現在準備を進めております自転車用ヘルメットの購入費補助を活用し、自転車運転者への交通安全対策に取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、基本目標Ⅳ「いつも笑顔で健やかに つながり100倍ひろげよう」でございます。

福祉・医療では、「新たな日常」においても、これまでと変わりなく、高浜市に暮らす誰もがその人らしく安心した日常をおくれるよう、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種を速やかに実施していくことを最優先事項として取り組んでまいりすとともに、各関係医療機関等と連携し、感染症の拡大防止に努めてまいります。

また、障がいのある方もその人らしく、将来にわたり高浜市で安心して暮らしていけるよう、相談、体験の機会、緊急時の対応などの機能を備え、24時間、365日迅速に支援が受けられる地域生活支援拠点を4月よりスタートするため、総合コーディネーターの配置など、障がいのある方やその家族の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築してまいります。

さらに、高齢者の皆様が家に閉じこもることなく、いきいきとした生活を送ることができるよう、平成27年度より国立長寿医療研究センターとの協働で実施し、今では高浜市の生涯現役のまちづくりの取組みとして定着、利用されているホコタッチを活用し

た認知症予防の研究事業について、さらなるステップアップを目指し、個人ごとの活動からより多くのデータを取得できるプログラムを開発し、新たな認知症予防に関する研究事業に取り組んでまいります。

以上、令和3年度の市政運営に当たり、重点施策について、申し述べさせていただきました。

(結びに)

第6次高浜市総合計画のスタート時、市民の皆様と意見交換をする中で、私は「井戸を掘る」というお話をさせていただきました。井戸を掘るという作業はいつ水が出るかもわからない中で、皆で辛抱強く取り組み続け、水が湧き出て井戸となると、その井戸を皆で共有し大切に後世につないでいく。現在、第7次高浜市総合計画の策定作業を進めておりますが、大切な自分たちのまち「たかはま」の未来を皆で考え、将来世代につないでいく。井戸を掘るというたとえは、まさにまちづくりに相通じるものであると私は思っております。

また、井戸には「渇に臨みて井を穿つ」ということわざがございます。喉がかわいてから井戸を掘っても手遅れであるという意味から「必要に迫られて、慌てて準備しても間に合わない」という意味のことわざです。

デジタル化の進展や外国籍住民の増加など、就任当初とは社会状況は非常に変容してまいりました。総務省「情報通信白書」では2010年にスマートフォン保有率は9.7%であったのに対し、2018年では79.2%となるなど、国民の8割以上が携帯端末を保有する状況となりました。外国籍住民につきましても県内トップレベルの7.9%という人口割合となっております。

そうした社会変化にも柔軟に対応していくため、「アシタのチカラ」。常に未来を見据え、市民にとって真に必要な施策は何かを考えながら、将来の高浜市を支え、生きていく世代に選択肢を用意していくため、私どもは取り組み続け、そして、その歩みはこれからもたゆまず進めてまいります。

「新たな日常」の中で、「新たなつながり」「新たな発想」を「アシタのチカラ」にかえて、一日でも早く、市民の皆様が安心して笑顔で日々を過ごせるよう、全力で取り組んでまいります。

今後とも議員各位並びに市民の皆さまのより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げ、令和3年度の施政方針とさせていただきます。